

すまいるたん



第10号
平成18年
9月13日

新開地と

共に歩んだ 小林マツさん 94歳



関東大震災、東京大空襲からも免れ
生き残ったジョイフル三ノ輪商店街。

明治44年生まれの小林マツさんは、

5歳で三ノ輪銀座⇨新開地に来てから
90年近く、商店街と共に歩んで来ました。

大正2年4月に王子から三ノ輪橋間に
王子電車が開通してから、徐々に三ノ輪
に商店が集まりだし、三ノ輪銀座商店街
が形としてできたのは、大正8年の秋の
頃からか詳細はわかりませんが、判明し
ているのは大正13年頃からです、

小林さんは、17歳から、小林玩具店を
任され、朝起きるとすぐに店を開け、三
ノ輪座（映画館）が終わる午後11時まで
人通りが絶えず、年中無休で仕事をし
てきました。

仕入れは、都電に乗って、蔵前まで行
き、商品をふろしきに包んで背中に背負っ
て帰ってきました。

おはじきやメンコ、ビー玉は小物屋の
駄菓子屋さん。その他の節句人形や犬張
子、デンデン太鼓は大物屋のおもちゃ屋
さんでした。おもちゃ屋さんは、小林玩
具店が、一番古く最盛期で三ノ輪銀座で

3軒ありました。

三五の節句の時期には、
衣料品屋さんや傘屋さんが、
貸し店をして、10軒程が節
句人形を売っていました。

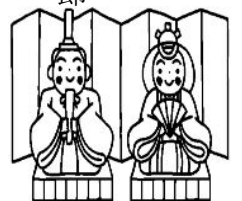
小林さんも通常の店頭の商品を店の2階
に全部引き上げて、お雛様や武者人形を
販売しておりました。

犬張子は、大小5種類あり、デンデン
太鼓を黄色の麻縄で犬張子の背に背負わ
せた物を初宮参りのお祝いとして親戚や
近所の人が買って贈り、お返しにご近所
に七五三のような長い飴を配ったそうで
す。

多産で安産な所から出産祝いや子供の
成長祈願を祈って犬張子が、贈られるよ
うになりました。デンデン太鼓を背負っ
たものは子供の魔除けとして生まれ、デ
ンデン太鼓に裏表が無い事から「裏表の
無い素直な子供に育ちますように」との
願いが込められています。

デンデン太鼓を背負った犬張子をつけ
て人力車に乗って初宮参りをされた方も
いたそうで、たいがい5、6個は贈られ
ていたそうです。

クリスマスの日は、夜中の
2時3時まで子供のプレゼント
トを買う人が来て、大晦日は
徹夜で店を開け、飾り羽子板
を売っていました。元旦には、飾り羽子



板をしまい、通常のおもちゃを出してい
ました。元旦に店を開けていたのは、お
もちゃ屋さん和菓子屋さんだけで、本
当に忙しかったと小林さんはおっしゃっ
ていました。

昭和53年12月にアーケードが完成し、
三ノ輪銀座商店街はジョイフル三ノ輪に
生まれ変わりました。

7月の七夕飾りは、商店街の各班が競っ
て飾りツケをし、8月恒例の縁日大会も、
以前は、盆踊り大会をしており、商店街
の人達も参加して踊り、見物客でにぎわ
いを見せていました、

そんな栄えた三ノ輪銀座もイトーヨー
カドーが40年程前にできてから、衰退の
一途をたどりはじめてきました。

少子化が進み、10年程前に、息子さん
が引き継いだ小林玩具店も閉店しました。
「昔は、黙っていてもお客さんは来るし、
商品を道路にはみ出すこともなくてよかつ
たよ。」「今は、お客さんが来ないから、
早く閉める。早く閉めるからお客さんも
来ない、悪循環だよ。」

40歳でご主人を亡くし、4人の子供を
無我夢中で育て上げた小林マツさん、振
り返られて、おっしゃっています。

昔のように、にぎわいを取り戻すには
どうしたらよいのでしょうか。

巢鴨に負けない商店街作りを真剣に考
えないといけませんね。

